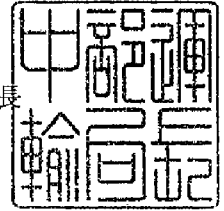




中運交企第 4 号
平成 30 年 4 月 27 日

津市地域公共交通活性化協議会 会長 殿

中 部 運 輸 局 長



地域公共交通確保維持改善事業の二次評価結果の通知について

地域公共交通確保維持改善事業実施要領に基づき実施した二次評価等の結果を別添
のとおり通知します。なお、評価結果については、各協議会等において積極的に公表さ
れたい。

地域内ライダーシステム 事後評価要約版(29年度)

支局 No.	自治体・協議会名		二次評価
	事業概要	自己評価	
	津市地域公共交通活性化協議会		
三重 53	久居地域稲葉ルート、久居地域稲葉ふれあい会館ルート他	<p>久居地域 利用者数 前年度比91.9% (一便あたり0.4人減) (目標:102%)</p> <p>河津地域 利用者数 前年度比87.2% (一便あたり0.3人減) (目標:97%)</p> <p>芸濃地域 利用者数 前年度比86.0% (一便あたり0.5人減) (目標:100%)</p> <p>安濃地域 利用者数 前年度比98.1% (一便あたり0.1人減) (目標:97%)</p> <p>名張奥津線 利用者数 前年度比100% (目標:100%)</p> <p>美杉地域 利用者数 前年度比104.7% (一便あたり0.1人増加) (目標:100%)</p> <p>美里地域 利用者数 前年度比71.2% (一便あたり0.8人減) (目標:80%)</p> <p>一志地域 利用者数 前年度比92.0% (一便あたり0.2人減) (目標:101%)</p>	<p>高齢者外出支援事業(シルバークエーエミカ)の取組は、高齢者向けバスの乗り方教室「や「わたしの時刻表」など、高齢者向けの利用促進に資する取組と併せて実施することで、地域全体の公共交通利用者の底上げに繋がる取組になることを期待します。</p> <p>現在、地域公共交通網形成計画の中間評価が実施されており、目標の達成状況を適切に評価され、必要に応じて各事業・施策の改善策の検討、見直しをするなどして、実のある中間評価を実施されることを期待します。</p> <p>また、市内を運行する地域間幹線系統の中には輸送量が低いものもあり、このままでは当該バス路線を維持することができず、ひいてはこの地域の公共交通ネットワークの崩壊を招きかねないため、これに対応した取組が早急かつ効果的に実施されることを期待します。</p>

A 委員	B 委員	C 委員	運輸局
-	-	-	<p>◆津市合併後、市内で完結する地域間幹線系統が複数存在するため、果ではなく市町に検討をお願いすることも必要ではないか。 →交通圏内の地域間幹線18系統のうち、9系統は津市内で完結するため、指摘を踏まえ対応を検討したい。</p>
その他交通圏(津・伊賀交通圏)			

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(生活交通確保維持改善計画に基づく事業)

資料6-2

平成 年 月 日

協議会名： 津市地域公共交通活性化協議会

評価対象事業名： 地域内フィーダー系統確保維持費補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
【補助対象となる事業者名等の名称を記載】	【系統名・航路名・設備名、運行(航)区間、整備内容等を記載(陸上交通に係る確保維持事業において、車両減価償却費等及び公有民営方式車両購入費に係る国庫補助金の交付を受けている場合、離島航路に係る確保維持事業において離島航路構造改革補助(調査検討の経費を除く。)を受けている場合は、その旨記載)】	【事業評価の評価対象期間において、前回の事業評価結果をどのように生活交通確保維持改善計画に反映させた上で事業を実施したかを記載】	A・B・C評価 【計画に基づく事業が適切に実施されたかを記載。計画どおり実施されなかった場合には、理由等記載】	A・B・C評価 【計画に位置付けられた定量的な目標・効果が達成されたかを、目標ごとに記載。目標・効果が達成できなかった場合には、理由等を分析の上記載】	【事業の今後の改善点及びより適切な目標を記載。改善策は、事業者の取り組みだけでなく、地域の取り組みについて広く記載。特に、評価結果を生活交通確保維持改善計画にどのように反映させるか(方向性又は具体的な内容)を必ず記載すること。】 ※なお、当該年度で事業が完了した場合はその旨記載
津市	久居地域稲葉ルート 榊原出張所～三重中央医療センター～久居総合支所 第1号系統	地域のスーパーに高齢者外出支援事業のポスターを掲示するとともに、高齢者外出支援事業及びモビリティマネジメントのチラシを設置した。 また、4月から榊原線の一部を津市廃止代替バスとして運行しているが、定常的な利用者が少ないため、津市コミュニティバスのあり方を含めた公共交通網の整備について、榊原地区の住民と協議を重ねている。	A	計画どおり事業は適切に実施された。	久居地域の利用者数は、前年度比91.9%(一便あたり0.4人減)で、利用者数102%という目標を達成することができなかった。 路線別には、 ・稲葉ルート 98.8% ・稲葉ふれあい会館ルート 88.5% ・榊原ルート 95.4% ・桃園ルート 83.1% ・野村ルート 87.9% となっており、全ルートで利用者数が前年度を下回った。 定常的な利用者による利用が減少する一方で、新規の利用者による利用が伸び悩んでいる。
津市	久居地域稲葉ふれあい会館ルート 稲葉ふれあい会館～三重中央医療センター～久居総合支所 第2号系統		A	計画どおり事業は適切に実施された。	
津市	久居地域榊原ルート 八知山～三重中央医療センター～久居総合支所 第3号系統		A	計画どおり事業は適切に実施された。	
津市	久居地域榊原ルート 久居総合支所～三重中央医療センター～安子公会所 第4号系統		A	計画どおり事業は適切に実施された。	
津市	久居地域桃園ルート 木造7区集会所～三重中央医療センター～久居総合支所 第5号系統		A	計画どおり事業は適切に実施された。	
津市	久居地域野村ルート 久居総合支所～三重中央医療センター～久居総合支所 第6号系統		A	計画どおり事業は適切に実施された。	

津市	河芸地域河芸循環北ルート 河芸総合支所～近鉄千里駅・千里ヶ丘団地東～河芸総合支所 第7号系統	地域のスーパーに高齢者外出支援事業のポスターを掲示するとともに、高齢者外出支援事業及びモビリティマネジメントのチラシを設置した。	A	計画どおり事業は適切に実施された。	B 河芸地域の利用者数は、前年度比で87.2%（一便あたり0.3人減）で、利用者数97%という目標を達成することができなかった。 路線別には、 ・河芸循環北ルート 91.6% ・河芸循環南ルート 82.5% となっており、両ルートで利用者数が前年度を下回った。 定常的な利用者による利用が減少する一方で、新規の利用者による利用が伸び悩んでいる。	津市高齢者外出支援事業の開始により、利用者数は増加傾向にあることから、さらなる利用者増に繋がるよう、利用促進活動を継続すると共に、河芸地域公共交通あり方検討会や地域懇談会の活用により地域ニーズの把握に努め、ダイヤ改正や停留所の再編について検討していく。
津市	河芸地域河芸循環南ルート 河芸総合支所～近鉄豊津上野駅・近鉄千里駅～河芸総合支所 第8号系統		A	計画どおり事業は適切に実施された。		
津市	芸濃地域芸濃循環明ルート 芸濃総合支所～中町・イオンタウン芸濃～芸濃総合支所 第9号系統	地域のスーパー及び医療機関に高齢者外出支援事業のポスターを掲示するとともに、スーパーには高齢者外出支援事業及びモビリティマネジメントのチラシを設置した。	A	計画どおり事業は適切に実施された。	B 芸濃地域の利用者数は、前年度比で86.0%（一便あたり0.5人減）で、利用者数100%という目標を達成することができなかった。 路線別には、 ・芸濃循環明ルート 71.0% ・芸濃循環安西ルート 75.1% ・芸濃循環雲林院ルート 108.9% ・芸濃循環河内ルート 96.9% となっており、芸濃循環雲林院ルート以外のルートで利用者数が前年度を下回った。 定常的な利用者による利用が減少する一方で、新規の利用者による利用が伸び悩んでおり、地域の中でも過疎化が進んでいる区域を運行している明ルート及び安西ルートの減少幅が大きい。	津市高齢者外出支援事業の開始により、利用者数は増加傾向にあることから、さらなる利用者増に繋がるよう、利用促進活動を継続すると共に、芸濃地域公共交通あり方検討会や地域懇談会の活用により地域ニーズの把握に努め、ダイヤ改正や停留所の再編について検討していく。 同地域では、新たにスーパーが建設されることから、乗り入れ等のニーズについて特に注意を払う。 また、停留所の新設についての意見もあることから、路線の延伸及び停留所の新設についても検討する。
津市	芸濃地域芸濃循環安西ルート 芸濃総合支所～イオンタウン芸濃・中町～芸濃総合支所 第11号系統		A	計画どおり事業は適切に実施された。		
津市	芸濃地域芸濃循環雲林院ルート 芸濃総合支所～市場・中町～芸濃総合支所 第12号系統		A	計画どおり事業は適切に実施された。		
津市	芸濃地域芸濃循環河内ルート 芸濃総合支所～市場・中町～芸濃総合支所 第13号系統		A	計画どおり事業は適切に実施された。		

津市	安濃地域明合ルート サンヒルズ安濃～曾根橋バス停前 ～サンヒルズ安濃 第14号系統	地域のスーパーに高齢者外出支援事業のポスターを掲示するとともに、高齢者外出支援事業及びモビリティマネジメントのチラシを設置した。 また、地域からのニーズに応え、「F前野橋」停留所を新設した。	A	計画どおり事業は適切に実施された。	A 安濃地域の利用者数は、前年度比98.1%（一便あたり0.1人減）で、利用者数97%という目標を達成することができた。 路線別には、 ・明合ルート 112.4% ・草生ルート 98.8% となっており、草生ルートで利用者数が前年度を下回った。 また、安濃ルートは一運行あたり輸送量が1.0を下回り補助対象外となった。	津市高齢者外出支援事業の効果が表れていない地域であるため、医療機関へポスター掲示を依頼するなどして周知を図ると共に、利用の少ない午後の便のあり方について検討していく。
津市	安濃地域草生ルート サンヒルズ安濃～曾根橋バス停前 ～サンヒルズ安濃 第17号系統		A	計画どおり事業は適切に実施された。		
三重交通株式会社	名張奥津線 飯垣内～敷津～奥津駅前 第1号系統	伊勢奥津駅でのJR名松線及び津市コミュニティバスとの接続に合わせたダイヤ変更を実施した。	A	計画どおり事業は適切に実施された。	A	利用者は、前年度比100%で、100%という目標を達成することができた。 美杉地域公共交通あり方検討会での協議を進め、廃止代替バスのあり方を津市コミュニティバスと併せて検討していく。
三重交通株式会社	美杉地域コミュニティバス 川上～エコープ・比津・竹原～ マックスバリュ(川口店) 第3号系統	地域のスーパーに高齢者外出支援事業のポスターを掲示するとともに、高齢者外出支援事業及びモビリティマネジメントのチラシを設置した。 地域からはデマンド交通の導入を希望する声が上がっているため、美杉地域公共交通あり方検討会にて、津市コミュニティバスのあり方について協議している。	A	計画どおり事業は適切に実施された。	A 美杉地域の利用者数は、前年度比104.7%（一便あたり0.1人増加）で、利用者数100%という目標を達成することができた。 路線別には、 ・川上ルート 102.4% ・丹生俣ルート 110.1% となっており、両ルートで利用者数が前年度を上回った。 補助対象外の逢坂・飼坂ルートは95.9%であった。	津市高齢者外出支援事業の開始により、利用者数は増加傾向にあることから、さらなる利用者増に繋がるよう、利用促進活動を継続すると共に、美杉地域公共交通あり方検討会や地域懇談会の活用により地域ニーズの把握に努め、ダイヤ改正や停留所の再編について検討していく。 美杉地域公共交通あり方検討会での協議を進め、デマンド交通の導入を含めた津市コミュニティバスのあり方を検討していく。
三重交通株式会社	美杉地域コミュニティバス 丹生俣～下之川・竹原～マックス バリュ(川口店) 第4号系統		A	計画どおり事業は適切に実施された。		
三重交通株式会社	美杉地域コミュニティバス 川上～比津～一志病院 第5号系統		A	計画どおり事業は適切に実施された。		
三重交通株式会社	美杉地域コミュニティバス 川上～エコープ・比津～一志病院 第6号系統		A	計画どおり事業は適切に実施された。		

三重交通株式会社	美里地域コミュニティバス 平木～美里総合支所・足坂～湯の瀬 第8号系統	小学校が統合し、新たにスクールバスが導入されたことから、利用者が減少している。美里地域公共交通あり方検討会にて、津市コミュニティバスのあり方について協議している。	A	計画どおり事業は適切に実施された。	B 美里地域の利用者数は、前年度比71.2%（一便あたり0.8人減）となり、利用者数80%という目標を達成することができなかった。 路線別には、 ・長野・高宮ルート 83.6% ・辰水ルート 63.1% となっており、両ルートで利用者数が前年度を下回った。 小学校の統合によりスクールバスが導入されており、小中学生の利用が無くなったことが大きく影響している。	津市高齢者外出支援事業の開始により、利用者数は増加傾向にあることから、さらなる利用者増に繋がるよう、利用促進活動を継続すると共に、美里地域公共交通あり方検討会や地域懇談会の活用により地域ニーズの把握に努め、ダイヤ改正や停留所の再編について検討していく。
三重交通株式会社	美里地域コミュニティバス 湯の瀬～稲葉口・美里総合支所～平木 第9号系統		A	計画どおり事業は適切に実施された。		
三重交通株式会社	美里地域コミュニティバス 美里総合支所～日南田・辰水農協前～湯の瀬 第10号系統		A	計画どおり事業は適切に実施された。		
三重交通株式会社	美里地域コミュニティバス 湯の瀬～辰水農協前・日南田～美里総合支所 第11号系統		A	計画どおり事業は適切に実施された。		
株式会社一志運輸	一志地域川合ルート 姫路集会所～川合高岡駅～とことめの里一志 第1号系統	地域のスーパーに高齢者外出支援事業のポスターを掲示するとともに、高齢者外出支援事業及びモビリティマネジメントのチラシを設置した。 川合高岡駅での接続に合わせ、ダイヤを改正した。	A	計画どおり事業は適切に実施された。	B 一志地域の利用者数は、前年度比92.0%（一便あたり0.2人減）となり、利用者数101%という目標を達成することができなかった。 路線別には、 ・川合ルート 99.4% ・高岡ルート 84.7% となっており、両ルートで利用者数が前年度を下回った。 年度途中までは増加傾向にあったが、津市高齢者外出支援事業の実施発表後に減少傾向に転じていることから、利用者心理に何らかの影響があった可能性がある。	津市高齢者外出支援事業の開始により、利用者数は増加傾向にあることから、さらなる利用者増に繋がるよう、利用促進活動を継続すると共に、一志地域公共交通あり方検討会や地域懇談会の活用により地域ニーズの把握に努め、ダイヤ改正や停留所の再編について検討していく。
株式会社一志運輸	一志地域高岡ルート とことめの里一志～石橋駅・川合高岡駅～とことめの里一志 第2号系統		A	計画どおり事業は適切に実施された。		

1	
中部様式1	
平成29年度 地域公共交通確保維持改善に関する自己評価概要（全体）	
津市地域公共交通活性化協議会	
平成20年8月20日設置	
フィーダー系統 平成28年6月29日 確保維持計画策定	

1.協議会が目指す地域公共交通の姿		2
津市の概要		
面積	711.11km ² （県内最大）	
隣接自治体	鈴鹿市、亀山市、名張市、伊賀市、松阪市、奈良県（御杖村、曾爾村）	
経緯	平成18年1月 10市町村が合併して誕生 平成22年4月 旧市町村で実施していたバス事業を「津市コミュニティバス」として再編 → 平成25年4月 本格運行開始	
津市地域公共交通網形成計画		
基本理念	一体感のあるまちづくりを支え、誰もが移動できる公共交通体系の実現	
基本方針	① 地域をつなぎ、住みやすいまちづくりを実現する公共交通ネットワークの構成	
	② 地域の特性に応じた利便性の高いコミュニティ交通の実現	
	③ 公共交通サービスをサポートし、利用促進につながる交通体系の実現	
	④ 持続可能な交通サービスが提供できる交通体系の実現とP D C Aサイクルの確立	
	⑤ 市民、交通事業者、行政の協働による仕組み作り	
計画期間	5年間（平成27年4月～平成32年3月）	
		《公共交通ネットワーク概要図》

2.計画の達成状況の評価に関する事項 3

■津市地域公共交通網形成計画における評価

目標値	中間目標値と最終目標値を設定
評価年度	平成29年度に中間評価、平成31年度に最終評価を実施
方向性	・数値目標だけでなく、施策の実施状況も評価 ・中間評価 → 改善策の検討、最終評価 → 計画の見直し

■評価指標と目標値（津市地域公共交通網形成計画） ★国庫補助事業に関するもの

評価指標	中間目標	中間実績	最終目標
「幹線」と位置付けるバス路線の利用者数 (人/年)	2,249,500	2,171,357	2,249,500
市内の鉄道の乗降者数 (人/年)	17,067,300	17,583,573	17,067,300
★「支線」と位置付けるバス路線の利用者数 (人/年)	2,080,200	1,714,702	2,080,200
津市への観光入込客数 (人/年)	2,784,200	2,649,646	2,811,500
観光目的での津工アポートルライン利用者数 (人/年)	18,600	19,262	21,300
地域住民運営主体型の公共交通の導入協議箇所数 (件)	10	5	15
「支線」における地域をまたいだ路線の利用者数 (人/年)	16,500	12,893	17,000
モビリティマネジメント・啓発イベント等の開催数 (回/年)	6	6	8
低床バスの導入率 (%)	63	70	70
公共交通全体の利用者数 (人/年)	21,675,000	22,070,536	21,678,800
地域公共交通あり方検討会等の地域が主体となった会議の開催数 (回/年)	30	25	38

2.計画の達成状況の評価に関する事項－2 4

■評価指標と目標値（地域公共交通確保維持改善計画） ★国庫補助事業に関するもの

地域	ルート名	目標値 (対前年比)	地域	ルート名	目標値 (対前年比)
久居	★稲葉ルート	102%	芸濃	★芸濃循環明ルート	100%
	★稲葉ふれあい会館ルート	102%		★芸濃循環安西ルート	102%
	★榑原ルート	102%		★芸濃循環雲林院ルート	95%
	★桃園ルート	103%		★芸濃循環河内ルート	100%
	★野村ルート	104%		地域全体	100%
河芸	地域全体	102%	一志	★川合ルート	100%
	★河芸循環北ルート	95%		★高岡ルート	102%
	★河芸循環南ルート	100%		地域全体	101%
美里	地域全体	97%	白山	家城ルート	100%
	★長野・高宮ルート	97%		城立・福田山ルート	100%
	★辰水ルート	70%		白山循環三ヶ野ルート	100%
地域全体	80%	地域全体		100%	
安濃	★明合ルート	95%	美杉	★川上ルート	100%
	★安濃ルート	95%		★丹生保ルート	100%
	★草生ルート	100%		逢坂・飼坂ルート	100%
	地域全体	97%		地域全体	100%

※ 津市地域公共交通網形成計画の評価指標『「支線」と位置付けるバス路線の利用者数』について、地域公共交通確保維持改善計画ではルート毎の目標値を設定

3.目標達成に向けた公共交通に関する具体的取組み内容

5

■ 津市高齢者外出支援事業

開始日	平成29年9月25日
対象	市内に住所を有する65歳以上の方(約8万人)
内容	① オリジナルICカード(シルバーエミカ)を無償交付 ② 年間2,000ポイントを上限に乗車ポイントを付与
利用	① 三重交通Gの路線バス → ポイント精算 ぐるっと・つーバス → ポイント精算 津市コミュニティバス → カードの提示で無料



★★★ シルバーエミカの交付・利用件数 ★★★

	9月(25日～)	10月	11月	合計
カード交付	1,468件	1,739件	963件	4,170件
ポイント利用	362件	3,468件	3,835件	7,665件
津市コミュニティバス利用	791件	4,475件	4,435件	9,701件

★★★ 津市コミュニティバスの利用者数等 ★★★

	9月(25日～)	10月	11月	合計
利用者数	1,546人	9,352人	9,015人	19,913人
対前年比	98.7%	112.5%	114.4%	112.1%
無料利用率	51.2%	47.9%	49.2%	48.7%

3.目標達成に向けた公共交通に関する具体的取組み内容-2

6

■ 津市地域公共交通網形成計画の中間評価

◎ 評価テーマ毎に分科会を設置

	評価テーマ
分科会A	公共交通ネットワークの構築
分科会B	地域住民との協働
分科会C	公共交通の利用促進

◎ 評価方法

『津市地域公共交通網形成計画中間評価シート』を活用

◎ 評価スケジュール

5月	分科会 施策等の実施状況を確認
7月	分科会 施策等の実施状況の評価
8月	分科会 平成31年度までの方向性を議論
11月	協議会 中間評価シートの完成
1月	協議会 課題事項の改善策を検討
2~3月	協議会 中間見直し報告書の作成

① 各項目の達成状況を5段階評価(Cが合格点)

評価	数値目標	施策の実施状況
A	105%以上	80点以上(大変よくできた)
B	100%以上105%未満	70点以上80点未満(良くできた)
C	95%以上100%未満	60点以上70点未満(できた)
D	90%以上 95%未満	50点以上60点未満(やや不十分)
E	90%未満	50点未満(不十分)

② 総合評価

Aを5点、Bを4点、Cを3点、Dを2点、Eを1点とし、目標毎の合計点数/満点で評価
(評価基準は施策の実施状況と同じ)

③ 平成31年度までの方向性
総合評価に応じ、施策の改善案等を決定

4.具体的取組みに対する評価 7

■評価の実施日：平成30年1月10日
(平成29年度第5回津市地域交通活性化協議会)

■津市コミュニティバス利用実績

	平成29年度	平成28年度	前年度比	目標	評価	評価基準	
久居地域	3,983人	4,334人	91.9%	102%	B	A	達成できた (目標値を上回る)
河芸地域	2,958人	3,391人	87.2%	97%	B		
芸濃地域	5,083人	5,909人	86.0%	100%	B		
美里地域	6,988人	9,811人	71.2%	80%	B	B	達成できなかった (目標値を下回る) 【目標値の7割以上】
安濃地域	2,236人	2,279人	98.1%	97%	A		
一志地域	5,845人	6,350人	92.0%	101%	B	C	達成できなかった (目標値を下回る) 【目標値の7割未満】
白山地域	41,826人	37,505人	111.5%	100%	A		
美杉地域	17,617人	16,825人	104.7%	100%	A		
合計	86,536人	86,404人	100.2%	-	-		

■目標達成状況についての考察

- ・白山地域：白山高校へ名張方面から近鉄電車で通う生徒による利用者増
- ・美里地域：小学校の統廃合による利用者減が顕著
- ・全地域：定常的な利用は減少傾向にあり、新たな利用者の確保が課題

■今後の方針

- ・高齢者を対象とした『バスの乗り方教室』をはじめとした利用促進活動
- ・津市高齢者外出支援事業の効果の確認
- ・利用者の少ない路線について、ダイヤや路線の見直し及び路線の統廃合を検討

4.具体的取組みに対する評価-2 8

■津市コミュニティバスが接続する幹線バスの利用実績

★国庫補助に関するもの

津市コミュニティバス	接続する幹線バス (輸送量/日)	津市コミュニティバス	接続する幹線バス (輸送量/日)
★稲葉ルート	榊原線 (A) (61.9人)	★芸濃循環雲林院ルート (再掲)	安濃線 (32.5人)
★稲葉ふれあい会館ルート		★芸濃循環河内ルート (再掲)	
★榊原ルート		★明合ルート	
★桃園ルート		安濃ルート	
★野村ルート	津太陽の街線 (16.6人)	★草生ルート	長野線 (38.0人)
★河芸循環北ルート		★長野・高宮ルート	
★河芸循環南ルート	椋本線 (86.7人)	★辰水ルート	辰水線 (A) (15.6人)
★芸濃循環明ルート		★辰水ルート (再掲)	
★芸濃循環安西ルート		★川合ルート	波瀬線 (35.5人)
★芸濃循環雲林院ルート		★高岡ルート	
★芸濃循環雲林院ルート	亀山椋本線 (17.6人)		
★芸濃循環河内ルート			

■幹線バスについての考察

路線名	主な利用者
津太陽の街線	通勤、通学
亀山椋本線	通学
辰水線 (A)	通勤、通学、通院など多様

← 主な利用者に合わせた利用促進

5.自己評価から得られた課題と対応方針		9
■課題① 新たなバス利用者の確保		
新たな取組	これまでの取組の継続	
高齢者を対象とした『バスの乗り方教室』	小学生を対象とした『バスの乗り方教室』	
広報紙への『公共交通に関する記事』の掲載	津まつりでのブース出展	
	バスの日の街頭啓発	
	みえ交通安全・環境フェスタ	
	MMシステムを活用した啓発	
■課題② 利用者の少ない路線の取り扱い		
新たな取組	これまでの取組の継続	
津市地域公共交通活性化協議会における分科会形式での改善策検討	地域公共交通あり方検討会等を活用した地域の意見の反映	
デマンド交通導入についての検討	新たな施設等への接続	
	鉄道や幹線システムのダイヤ変更に合わせたダイヤの見直し	
■課題③ 支線と幹線の接続強化		
新たな取組	これまでの取組の継続	
津市コミュニティバスの時刻表に、接続する幹線の時刻表を追記	幹線との接続に合わせた支線のダイヤ設定	

10	
中部様式2	
平成29年度 地域公共交通確保維持改善に関する自己評価概要（経緯）	
<h2>津市地域公共交通活性化協議会</h2>	
平成20年8月20日設置	
フィーダー系統 平成28年6月29日 確保維持計画策定	

1.直近の第三者評価の活用・対応状況

11

直近の第三者評価委員会における事業評価結果	事業評価結果の反映状況 (具体的対応内容)	今後の対応方針
幹線の評価がどの路線もよろしくない結果となっている。他人事でなく、津市としてモニタリングする必要があるのではないか。	<ul style="list-style-type: none"> ・幹線輸送量の数値は三重県から提供 ・地域公共交通あり方検討会や地域懇談会で地域のニーズを把握 	1日あたりの輸送量が補助対象基準の15人を割り込む恐れのある路線を中心に、利用促進活動を継続
美杉地区はJR名松線の復旧と合わせて取り組みを実施する必要があったのではないかと。	<ul style="list-style-type: none"> ・復旧時：「伊勢鎌倉駅前」停留所を新設 ・復旧後：乗継に合わせたダイヤ改正、観光客向け土日祝日ダイヤの設定、沿線マップの作製等の魅力発信事業 	土日祝日ダイヤの設定後、土日祝日の利用者が減少傾向にあるため、ダイヤ及び路線の見直しを検討 デマンド化を求める声もあり、地域住民による京丹後市への視察を予定
幹線、フィーダーともに現状の危機的状況に対する意識を持ち、当事者として対応施策に取り組んでほしい。	<ul style="list-style-type: none"> ・津市高齢者外出支援事業を開始 ・Webを活用したモビリティマネジメントの実施 ・オーダーメイド時刻表『わたしの時刻表』の取組 ・隣接市と協力し、中学校や高校へチラシを配布 	高齢者を対象にした『バスの乗り方教室』や、広報紙への記事掲載を新たに実施

2.アピールポイント

12

■ Webを活用したモビリティマネジメントの実施

運用開始：平成29年4月

運用方法：津市ホームページ上で運営



課題：津市のホームページ上で運用しているが、場所が分かりにくい
 取組：QRコード入りのボールペンを作成



■ 『わたしの時刻表』の取組

概要： 公共交通の見える化の一環として、インターネット環境に無い高齢者等を対象に、オーダーメイドによる時刻表を作成

受付開始： 平成29年6月

課題： 広報紙及びホームページ上で周知しているが、希望者が少ない

今後の取組： ① 高齢者を対象とした『バスの乗り方教室』や、ダイヤ改正等に関する問い合わせがあった際に周知

② 広報紙への掲載を継続

实例

わたしの時刻表
【土日祝日用(前山)】
行き先： 総合文化センター

住所： 津市 前山津塚●●●●●
氏名： ●●●●

平成29年7月20日作成
※ダイヤ変更の際は、ご注意ください！！
津市交通政策課
229-3289

<行き>

1三交バス(桜本線)
(発)前山
12:20 13:00
12:32 13:12
(着)津塚

2三交バス(豊原大学等が丘線)
(発)津塚西口
12:45 13:22
12:49 13:26
(着)総合文化センター(前)

<帰り>

1三交バス(豊原大学等が丘線)
(発)総合文化センター(前)
15:33 16:09
15:38 16:14
(着)津塚西口

2三交バス(桜本線)
(発)津塚
15:42 16:42
15:54 16:54
(着)前山

●●●●● : 総合文化センター、総合文化センター前の両方に停車します
●●●●● : 総合文化センター前のみ停車します
●●●●● : 総合文化センターのみ停車します